

2016.1.24 年間第三主日

ガリラヤで伝道を始める

ルカによる福音 1:1-4、4:14-21

わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人が既に手を着けています。そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

（さて、）イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

「主の霊がわたしの上におられる。

貧しい人に福音を告げ知らせるために、

主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、

捕らわれている人に解放を、

目の見えない人に視力の回復を告げ、

圧迫されている人を自由にし、

主の恵みの年を告げるためである。」

イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

説教

きょうの朗読にはイエスの使命、つまりイエスがこの世に来られた目的が、明瞭に示されています。

神様の関心の優先順位の筆頭は、常に、「貧しい人」「捕らわれている人」「目の見えない（などの障がいのある）人」「圧迫されている人」です。その「貧しい人」たちのお先真っ暗で希望の無い日々、「救い」をそして「神の愛」を届けることがイエスの使命です。

風化という日本語があります。もともとの意味は岩石が太陽や風雨にさらされることによって破壊され、物理的、化学的に変質する作用のこと、をさしていますが意味が転じて、個人であれ集団であれ、人が抱く意識や関心の度合いが、年がたつことによって低下することを、いいます。

わたしたちも含めて教会ではキリストの記念として聖餐の式典を毎週（ないしは定期的）におこないます。その人、その人にとって聖餐の受け止め方はそれぞれであっていいのですが、キリストのからだにあずかるという神秘的な行為をとおしてキリストの使命をわたしたちが受け継ぐという決意を新たにしているのだ、という解釈に異議はないでしょう。それでも人間のやることですから残念ながら儀礼は風化します。つまりただ、かたちだけでキリストのからだを食し、キリストの血を飲んでいることもあるわけです。また礼拝では福音朗読を通してキリストの生涯に触れ、その意味を悟り、わたしたちもキリストのようになろうと思い決心します。しかし、それがなかなか実現できません。わたしたちはキリストのことばをちゃんと聞き取っているのか？あらためてきょうの福音を聞いてみましょう。

イエスの使命、目的とはについてこういっています。

主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。4:18-19

そして、イエスはこの使命についてどういっているかというと、

イエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。4:21

斜めから読もうが、まっすぐに受け止めようが、イエスのこのことばの意味は誤解しようがありません。わたしたちが、このことばを耳にしたとき、イエスの使命・目的は実現したのです。

でも事はそう単純ではありません。旧約聖書をとおしてイスラエルの歴史を知っているわたしたちは、神に選ばれた民＝ユダヤ人がたびたび神にそむいたことを知っています。ルカの福音でもイエスのことばを直接聴いたナザレの人たちはただちにイエスにそむいたことが記録されています。

これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。4:28-30

しかしイエスは自分が受け入れられないこと、そして人はそう単純に「救い」を「神の愛」を信じることができないことは折り込み済みでした。ご自身の使命を全うされたイエスの生涯はこの人間の背きとの争いでもありました。福音を読み進めていくなかで、このことは徐々に誰の目にも明らかになっていきます。

人は神に背く、このやっかいな問題に対するキリスト教のひとつの答え、福音的な解釈を紹介します。

1. 誰よりも私自身が、貧しく、さまざまな物事に捕らわれており、モノが見えず、みじめで、神様の助け無しには何も出来ない者であることを認めること。
2. そんな私がそのままで神様に愛されていること。
3. その私が神様に助けを求めながら貧しい自分を差し出す時に、神様はその私を使って御自分の望みを成し遂げて行かれる、ということ。

これがイエスの教え「良き報せ＝福音」なのだという解釈です。

イエスの呼びかけに応じて生涯を貧しい中で最も貧しい人々に捧げたマザー・テレサはいいました。

「与えるべきものがどれだけあるかが問題なのではなく、どれだけ空になったかが大切です。それによって私たちの命は満たされ、私たちの中でイエスに彼の命を生きて頂くのです。」

今日の福音で読まれたイエスの使命が、今日も弱く貧しい私たちを通してこの世で実現して行きますように。
